

# 一目瞭然町の財政状況

## 平成25年度一般会計決算

### 歳出では扶助費が前年度比0.5%減

次のページは「平成25年度一般会計は5年連続100億円超」

**特徴1**  
ホンダ操業等で固定資産税が大幅に増え、町税は前年度に比べ10.3%増加

**特徴2**  
男衾駅周辺整備、スマートIC整備事業で普通建設事業費は対前年度比16.1%増

**特徴3**  
職員・特別職の給料を減額し、人件費2.5%減少、義務的経費全体では6.5%減

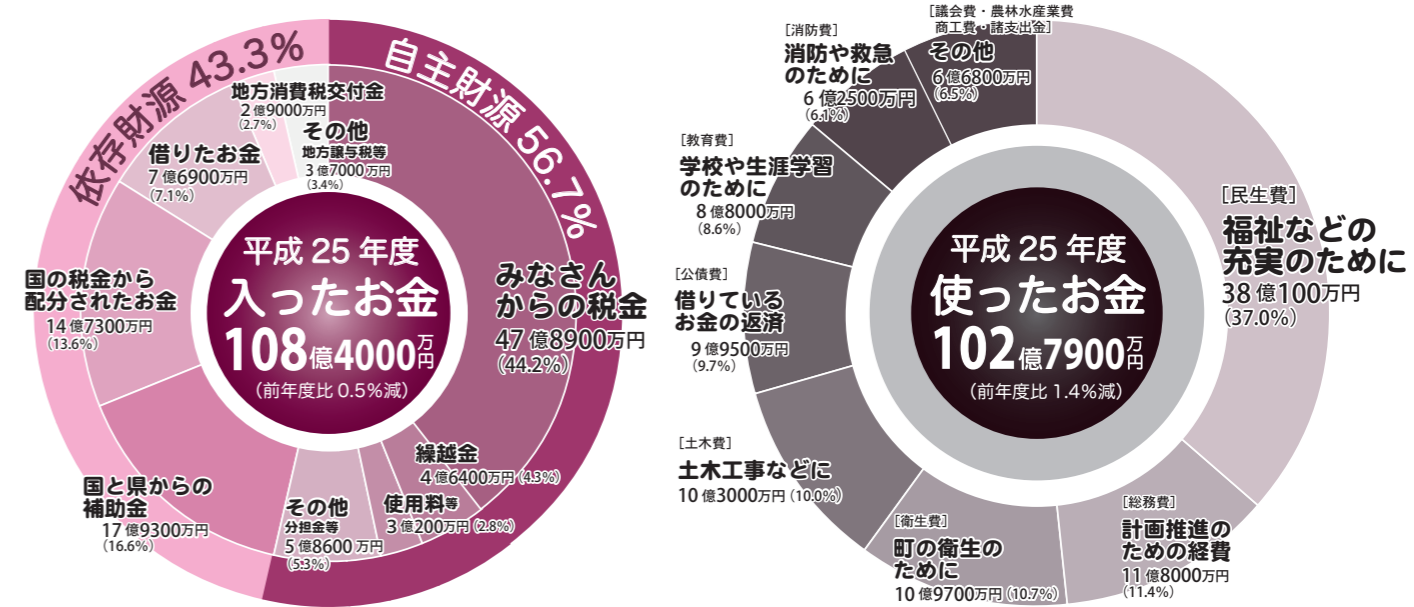
町の収入（歳入）では、ホンダ寄居工場が本格操業したことから固定資産税が大幅に増加したほか法人町民税も増加し、町税は約47億8900万円、前年度に比べ10.3%増加しました。一方、地方交付税は税率が増えたため、普通交付税が前年度比12.9%減少。また、国庫支出金は、適用範囲が拡大された社会資本整備総合交付金を有効活用するなどから前年度より21.9%増加しました。

町の支出（歳出）では、国の交付金を活用し、町道227号線（寄居・小川道路）道路改築、（仮称）寄居PAスマートIC整備事業、道路舗装修繕工事等が実施されました。また、男衾駅周辺整備事業では、駅東西自由通路及び駅舎整備に関連する設計委託や用地買収を行い、エコタウン関連では役場に太陽光発電設備を設置するなど、普通建設事業費は対前年度比16.1%増加しました。

町の支出（歳出）のうち、扶助費は構成割合の中では最も多くを占めていますが、疾病予防に効果を生んでいる健康づくり・チャレンジポイント事業や各種健診の実施などにより医療費の増加抑制に努めた結果、前年度比0.5%減少しました。また、人件費も職員・特別職の給料を減額したことなどから2.5%減少し、義務的経費全体では6.5%減少となりました。

**入ったお金の構成を見ると…**  
町税など自主財源が占める割合は56.7%で、ホンダ寄居工場の操業などに伴って税率が増加し、前年度に比べて2.9ポイント上回りました。今後も景気の動向や町を取り巻く環境の変化に対応した自治体経営が必要と言えます。

**使ったお金を性質別に見ると…**  
義務的経費44.6%、投資的経費8.3%、その他経費47.1%。公共施設や道路整備等、将来に残るもののために使われる経費。



※金額は100万円(未満切捨)の計算方法で記載しているため、合計額が一致しない場合があります。

